

BACH スクリーンコンサート

2021. 7月

7月のテーマ バイオリン協奏曲（バイオリンコンチェルト）

バイオリン協奏曲のなかでも、ベートーヴェン、メンデルスゾーン、チャイコフスキー、ブラームスの作品が「4大バイオリン協奏曲」といわれる傑作です。

1、チャイコフスキー バイオリン協奏曲第1（38分）

若きバイオリニストの登竜門として知られるチャイコフスキーコンクールのファイナルはこの曲の演奏で優勝が争われます。神尾真由子は2007年の第13回チャイコフスキー国際コンクールで優勝しています。ヴァイオリン・ソロの妙技も堪能できる曲です。

第1楽章： 20分

オーケストラの第1ヴァイオリンが奏でる導入主題から始まる。ヴァイオリンが憂愁の色を帯びた第1主題を奏でる。やがて少し明るめの第2主題が顔を見せ、やがて独奏ヴァイオリンがゆったりと入る。終結に向け音楽が力と速度を増してゆく中、独奏ヴァイオリンは華やかな技巧で演奏を続け、最後は激しいリズムで楽章を閉じる。

第2楽章 7分

管楽器だけによる序奏に続いて独奏ヴァイオリンが愁いに満ちた美しい第1主題を演奏する。第2主題は第1主題に比べるとやや動きのある主題で、やはり独奏ヴァイオリン主体で演奏される。

第3楽章 12分

すべてに魅惑の旋律が溢れ俗舞曲のような趣を持ち、快活に、リズムカルに駆け回る。最後は、ピアノ協奏曲第1番のように管弦楽のみによるクレッシェンドを経て、華やかで熱狂的なフィナーレとなり、全曲を閉じる。

プラスα

2、メンデルスゾーン バイオリン協奏曲第1楽章（14分）

メンデルスゾーンの作品の中でもっとも親しまれている曲がこのバイオリン協奏曲です。バイオリンの魅力が最大限に発揮された作品で、全編に美しいメロディと詩情があふれています。第1楽章の中間部にカデンツァ（無伴奏のソロで演奏者の間かせどころ）があるのが特徴です。典型的な3楽章形式のヴァイオリン協奏曲で3楽章とも続けて演奏されます。



第1楽章

曲の冒頭からいきなりソロが登場し、バイオリンソロが伴奏に回り、オーケストラがメロディーを演奏する部分がある。

榎本大進は、クライスラー国際コンクールで第1位や幾つかの国際大会で1位の実績を持ち、2010年からベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターを務める。

3、パガニーニ ヴァイオリン協奏曲第2番第3楽章（9分）

ヴァイオリンの超絶技巧奏者として名声を誇ったイタリアのニコロ・パガニーニはヴァイオリンだけでなく、ヴィオラ奏者やギタリストであり、作曲家として多くの作品を産みだしています。楽譜を演奏会の数日前にようやく配布し、演奏後、楽譜はすべて回収した徹底ぶり。

死の直前に楽譜のほとんどを焼却してしまったこともあって、現存している楽譜は、彼の演奏を実際に聴いた人たちによって譜面として書き起こされたものがほとんどだそうです。

庄司紗矢香は1999年、パガニーニ国際ヴァイオリン・コンクールにて史上最年少で優勝しています。

第3楽章

ピアノ曲で知られるラ・カンパネラは有名ですが、その元になったのはパガニーニ作曲のヴァイオリン協奏曲第2番第3楽章の主題をリストが編曲してピアノ曲として書いたものです。

パガニーニの影響を受けた作曲家と作品

- ヴァイオリン協奏曲第2番第3楽章から
 - ・リストの「ラ・カンパネラ」
- 『24の奇想曲』（24のカプリース）から
 - ・ラフマニノフ「パガニーニの主題による狂詩曲」
 - ・ブラームスの「パガニーニの主題による変奏曲」



予告

8月はバロック音楽を予定しています
お楽しみに